

障害もつ子供に音声電子図書

4月の障害者差別解消法施行で、図書館などの施設で障害者への合理的配慮が義務づけられた。伊藤忠記念財団は障害をもった子供たちが読書を楽しめるよう、音声で読み上げる電子図書を国際規格「マルチメディア DAISY（デイジー）」で制作。各地の図書館と共同して普及に取り組んでいる。

東京都墨田区の障害児デイサービス施設「キッズサポートリマ」を、区立ひきふね図書館の職員らが訪れ、デイジー図書を使った読書会があった。天井に画面を映し出したあと、タブレット端末を活用。最初にボタンを押せばページは自動進行するため、紙の本をめくれなくても、読書ができる。

参加した7人の子供たちは、部屋のあちこちで食い入るように端末を見つめた。進行性の筋ジストロフィーで自分ではほとんど動けない高校1年の女子生徒（16）は、気に入ったせりふを言おうと、声を絞り出す。自分で読書する貴重な機会だ。

3月まで同図書館の職員だった山内薫さん（66）は

「図書館に来るのが難しい子供たちには、こちらから行かないと本に触れる機会がない。デイジーは発達障害、肢体不自由、視覚障害などに対応しており、普通の子供たちと同じように楽しめる」と語る。

デイジーは音声で読み上げている部分をカラーで表示し、肉声の正しい発音で録音しているのが特長。図書館や学校に無償提供している。これまでに、278タイトルを延べ4,327か所に配布した。今年度は9道県立図書館と協力、岡山県は「ももたろう」、奈良県は「わらしべ長者」など地元の民話を、5～15分程度、方言で収録する「日本昔話の旅」も行っている。

財団の矢部剛・電子図書普及事業部長（55）は「図書館から学校や地域に広がる。本を読む楽しみだけでなく、自分で読めたことで自信がついたり、友達と一緒に見ることで社会性が向上したりと、副次的な効果も出ている」と話している。

（毎日新聞・東京 2016年8月7日）